

新 風

2009

久留米工業大学同窓会会誌
第9号



本年度新設された「ものづくりセンター」

久留米工業大学同窓会

〒 830-0052 久留米市上津町2228 久留米工業大学内
電話 0942 (22) 2345



同窓会会長挨拶

同窓会会長 古 賀 秀 信

謹啓 師走の候、本学卒業生の皆様におかれましては益々ご繁栄のこととお慶び申し上げます。

この度 同窓会役員会にて伝統ある久留米工業大学同窓会会長に推薦いただいた交通機械工学科 昭和53年度卒業の古賀秀信と申します。

前会長の後を引き継ぐ大役で身が引き締まる思いです。

さて、就任に際し今後の抱負と願いを込めて一言、記したいと思います。

昨今、全国の大学事情を見ますと 少子化と経済不安による大学進学者の減少が顕著になり 立ち行かぬ学校経営も在るように聞きます。

本同窓会の唯一また最大の目標は 同窓生の隆盛と本学生の発展であることは 揺ぎ無いものと考えております。

そのためには 本大学、本学後援会とも連携し三位が一体となり学生と同窓生の発展に尽力したいと考えております。なお 同窓生の皆様におかれましては今後とも 同窓会活動にこれまで以上にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

このうへは、微力ではありますが一層精励し同窓会発展に注力いたす覚悟でございます。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

謹白



学長挨拶

学 長 尾 崎 龍 夫

卒業生の皆様、初めまして。私は、本年1月に学長に就任致しました。それまで、九州大学、有明工業高等専門学校と国立の教育機関に勤務し、私学は未経験です。地方都市にある小規模の単科大学は、厳しい状況にあると言うことは予備知識として承知はしておりましたが、現在それをまさに実感しているところです。この状況を何とか乗り越えるには、教職員全員が危機意識を共有し、各人それぞれが大学全体のために何をなすべきかを考え、行動することが強く求められていると思います。

最近の大学の取り組みについてご報告しますと、4月には、学生たちの学習支援を一層充実させるための「学習支援センター」、学外との交流窓口となる「地域連携推進室」を設置しました。9月には、学生たちのものづくり活動拠点や地域との交流拠点として「ものづくりセンター」を開所するなど、学生の教育改善や大学の社会貢献を推進する体制を整備しつつあります。また、瀋陽理工大学との学術交流協定を締結し国際交流も進めています。

さらには、大学にとって、卒業生、同窓会との連携を深めることが極めて大切だと思っています。その手始めとして、夏には、九州地区高校教員の卒業生の皆様との交流会、同窓会新役員の方々との懇談会を実施しました。大学は、学生が入学してから生涯を終えるまで引き続き関与すべきだと私は常々考えています。卒業生の皆様には、いつまでも母校を懐かしく、誇りに思っており、様々なご助言、ご支援をお願いしたい。大学は、何時でも卒業生に出来得限りの支援を惜しまない。そのような双方向の連携、交流を継続できる取り組みができればと切に願っています。どうか、折に触れ大学をお訪ね下さい。密にご連絡下さい。最後に、卒業生の皆様のご健勝、ご活躍と、同窓会の益々のご発展をお祈り致します。

卒業生子弟の奨学金制度新設のお知らせ

常任幹事 林 佳彦

本会会員のご子弟が会員の母校である久留米工業大学を受験し、入学する場合、入学金（平成21年度22万円）の免除を受けることができる卒業生子弟の奨学金制度が平成22年度入学生より適用が受けられます。その骨子は下記の通りです。

対 象：本会会員のご子弟
 対象入学試験：平成22年度入試全試験
 免 除 額：入学金の免除（平成21年度22万円）
 連 絡 先：0942-22-2345 入試課

その他手続き方法その他奨学金制度の詳細については、入試課までご連絡ください。また、推薦入試等で受験され入学が決定後でも奨学金制度が適用することができますので、該当される方は入試課までご連絡ください。

平成21年度役員会報告

常任幹事 林 佳彦

役員会が、平成21年7月24日（金）午後6時30分より久留米ハイネスホテルで行われた。本会開催前に母校の課外活動以外で活動している「愁華際（大学際）実行委員会」と「学生フォーミュラプロジェクトチーム」の援助金額の決定するためのプレゼンテーションを聞いた。開会にあたり古賀会長代行からの挨拶後審議に入った。平成21年度期役員の承認審議では、中原幹事より現会長代行の古賀秀信氏を次期会長に推薦され、審議の結果満一致で承認し、古賀秀信氏が会長に就任された。平成20年度事業報告および決算報告並びに平成21年度事業計画および予算審議は、満一致で承認されたが、プレゼンを行った2つの団体への援助金額については、会長に一任した。さらに、会員名簿調査実施は、世情の状況を見極める必要があることで一致した。承認された事柄は下記の通りである。

その後、懇親会が開催され和やかな雰囲気です役員間の親睦を深めることができました。

平成21年度期役員

職名	氏名	卒年	氏名	卒年
顧問	尾崎 龍夫	学 長	石川 集充	理事長
会 長	古賀 秀信	大交54		
副 会 長	丸田 祐之	大交55		
常任幹事	小嶋 剛	短自46	林 佳彦	大機56
幹 事	三股 哲	短自43	藤木 禮作	短自43
	陣内 久始	短自43	井上 利明	短自43
	中村 金次	短自43	中園 正彦	短設51
	中原 賢勝	大建54	宮崎 嘉久	大交54
	中島 隆	大建54	山本 秀行	大建55
	竹村 真一	大機58	原田 憲司	大機61
	牛島 晃司	大機63	柳瀬 伸也	大機63
	正岡 秀仁	大交63	小野 弘之	大建元
	小路口心二	大電元	瀬戸口英樹	大電
会 計	高西 賢二	大交58		
監 査	中尾 幸平	大機56	池田 秀	大交57
書 記	梶山瑠羽市	大交10		

平成20年度事業方向

7月	第1回 学内名委員会開催、役員会開催、援助依頼団体のプレゼンテーション、フォーミュラプロジェクトへ援助給付
8月	個人情報提供願い提出
9月	終身会費業務依頼、役員会議事録作成
10月	愁華祭案内状送付（久留米近郊約1300件）、愁華祭追加援助打合せ、愁華祭援助給付、愁華祭参加会員バザー券配布
12月	会員子弟の奨学金制度制定検討会、第2回学内委員会開催、仮称「卒業生子弟の奨学金」新設要望書提出
1月	愁華祭援助追加要請給付、法人創立50周年行事打合せ、卓球部全国大会出場助成金給付
2月	新学長の初の対談、大学改革推進委員会へ同窓会活動説明
3月	「卒業おめでとう」発刊および新会員に配布
通年	会員名簿管理、同窓会ホームページ更新

平成20年度決算報告

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

平成20年度通常経費決算

【収入】

科 目	収入 (円)
終 身 会 費	2,903,440
雑 収 入	2,593
繰 越 金	10,715,901
当年度収入合計	13,621,934

【支出】

科 目	支出 (円)
大学への寄付行為	1,251,693
運 営 費	108,385
事 務 費 支 出	47,982
パソコン維持関連費	10,280
ホームページリニューアル経費	0
会報誌発刊費	82,740
予 備 支 出	70,000
積立金へ支出	5,000,000
次年度繰越金	7,050,854
支 出 合 計	13,621,934

平成20年度積立金決算

科 目	金額 (円)
本年度積立金	5,000,000
雑 収 入	935,241
前年度までの積立金	40,538,060
積 立 合 計	46,473,301

平成21年度予算

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

平成21年度通常経費予算

【収入】

科 目	収入 (円)
終 身 会 費	2,226,560
雑 収 入	3,000
繰 越 金	7,050,854
当年度収入合計	9,280,414

【支出】

科 目	支出 (円)
大学への寄付行為	2,250,000
運 営 費	730,000
事 務 費 支 出	130,000
パソコン維持関連費	100,000
ホームページリニューアル経費	300,000
会報誌発刊費	1,520,000
予 備 支 出	500,000
次年度繰越金	3,750,414
支 出 合 計	9,280,414

平成21年度積立金決算

科 目	金額 (円)
本年度積立金	0
雑 収 入	80,000
前年度までの積立金	46,473,301
積 立 合 計	46,553,301

平成21年度事業計画

7月	第1回役員会開催、援助依頼団体のプレゼンテーション、フォーミュラプロジェクトへ援助給付
8月	個人情報提供願い提出
9月	終身会費業務依頼、第1回学内委員会開催、会報誌「新風8号」発刊及ぶ配布
10月	愁華祭案内状送付(久留米近郊約1300件)、愁華祭援助給付、愁華祭参加会員バザー券配布
12月	第2回学内委員会開催
3月	「卒業おめでとう」発刊および新会員に配布
通年	会員名簿管理業務、同窓会ホームページリニューアル及び更新業務、会員からの問合せ業務

「卒業生子弟の奨学金制度」を新設しました！

本学の卒業生の子弟が本学に入学される場合、入学金を全額免除します。

所定の申請書と続柄の確認できる書類をご提出ください。

手続きの詳細については、入試課にお問い合わせください。



学生の活躍

目標は九州勢初の全国優勝
フォーミュラプロジェクトチーム

(社団法人自動車技術会主催)は、全日本学生フォーミュラ大会(学生が自ら企画、設計、製作したフォーミュラスタイルのレーシングカーで、製作コストやデザイン、加速や操縦、耐久性、燃費など各種性能を競います。英文のルールの関所から始め、製作、チームの運営にかかるといって進みます。すべてを学生の手で行わなければならない、まさに「ものづくりの総合力」を競う大会です。



代表
小田 龍之介さん
(交通機械工学科3年)

私たちは2005年から活動を始め、2007年の第5回大会から出場し、昨年の第6回大会では66チーム中デザイン審査で15位(九州支部1位)、総合21位でした。今年の第7回大会は、コース走行中に冷却水が噴出するトラブルを起こし、製作日誌管理、事前の走行テストなどに課題を感しました。他の項目が高得点で66チーム中33位の成績でした。現メンバーは交通機械工学科と機械システム工学科の学生計16人です。技術力を高めるだけでなく、より多くの方々にもものづくりの楽しさ、喜びを知って頂くことを理念として掲げ、九州勢初の全国優勝を目指しています。

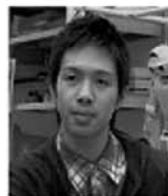
工学は堅くて難しそうですが、実は「モノ」を作ること。幼い頃一生懸命になった紙飛行機や粘土遊び……。学生たちは、自分で考え設計したものがカタチになる喜びと達成感を求めてさまざまな挑戦をしています。

竹切りロボット「プリンセスかぐや」を開発
チーム「竹取りの翁(おきな)」



高齢化などの影響で放牧され、根が侵入して農地を荒らしたり、山の保水力を弱めたりする「竹林被害」が各地で広がっています。災害の原因としても懸念されており、開墾する福岡県八女地区の立花町から協力をいただき、伐採の省力化として竹を自動で切断する電動ロボットを開発しました。今年度のコンテスト(社団法人日本機械学会主催)に参加し、近く審査結果が出ます。

チーム「竹取りの翁」は機械システム工学科ロボット・メカニクスコースの3人で構成。みんなものづくり大好き人間です。急斜面が多い竹林の状況を調べ、人が漕いで竹の下部に取り付けると自分で回り、上部から一定間隔で切断を繰り返して、下部に降りて停止するロボットを作りました。表面が滑り、しかもしなる竹を傷つけずに巻くのに苦戦し、竹特有の節を利用して、尺取り虫のように上昇する構造を工夫しました。アルミ材を使い軽量化も図りました。竹の切断ロボットは、調べた限りではほかに見当たらず、実用化を目指し、100万円以内ぐらいで提供し竹林の省力・低コスト管理に貢献したいと思っています。



代表
浦 宏徳さん
(機械システム工学科3年)

知識と技術を学び
心もはぐくむ教育を目指して

在学生への援助活動

平成20年度全国大会卓球選手権大会参加して

報告者：機械システム工学科2年 西 川 剛 弘

佐賀の予選では、自分もとよりペアの中島も共に調子がよく、率直に言って終わってみれば優勝していたという感じでした。その後全日本大会に備え日々練習をしましたが肝心の大会当日はいつもの調子が出ず、それが敗戦につながったように思えます。しかし大会の雰囲気を楽しむことができ、また全日本で勝ことの難しさなど貴重な体験をすることが出来ました。

試合は1回戦敗退と不本意な結果となりましたが今後はこの経験を糧に、さらに練習を重ね来年度も出場できるよう頑張ります。

なお、参加に際し、ご支援いただき有難うございました。

学生フォーミュラプロジェクト支援

報告者：学生フォーミュラプロジェクト代表 河 野 敦

久留米工業大学フォーミュラプロジェクトの、平成20年度活動内容について報告致します。

平成20年6月、兵庫県で開かれた自動車技術会関西支部主催の試走会に参加しました。車両の完成度をより高める為、大会関係者の方に改良点の指摘を頂きました。

平成20年9月に開催された第6回全日本学生フォーミュラ大会参戦を目指し、平成19年11月より車両の製作を開始しました。

平成20年8月、本田技研工業(株)様の御協力により熊本県のHSRサーキットにて、自動車技術会九州支部主催の試走会が初めて開催されました。大会直前に模擬車検を行って頂いた事で車両を細部までチェックする事ができました。

平成20年9月10日(水)~13日(土)、静岡県袋井市にある小笠山総合運動公園(通称エコパ)にて第6回全日本学生フォーミュラ大会が室開催され、国内の大学、短大、専門学校、そして海外から参加の15チームを含む、全77チームが参加しました。但し、第6回大会から事前に書類審査が実施されたため、当日会場に臨んだのは書類審査を通過した66チームでした。静的な審査を通過した後に行われる難関の走行競技では、大きな車両トラブルも無く、2年連続で完走する事が出来ました。

初参加の前回大会の総合成績は61チーム中51位でしたが、今大会は66チーム中21位を獲得、大幅に成績を上げることが出来ました。また、九州圏内より出場しているチームの中でNo.1を獲得する事が出来ました。

平成20年10月より新チーム体制に移行し、河野 敦が代表としてプロジェクトコンセプトを継承し、平成21年9月に開催さ奉る第7回大会大に向けて活動しております。今年度の目標は、エンジンの出力向上、軽量化、静的競技の書類の精度向上です。平成20年6月からテスト走行ができるよう、現在全力で車両を製作しています。

第7回大会は海外11大学を含む80大学とさらに参加大学が増加、日本大会としてではなく、国際大会へと規模が変わりつつあります。その中で私達は、上位を狙うべく全力で車両製作に励む所存です。

平成21年度もご支援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



第34回愁華祭 (大学祭) への援助活動

10月17日 (土) 18日 (日) の2日間、本館下の第一駐車場に会場を変更し第34回愁華祭 (大学祭) が行われ、この運営資金として同窓会より50万円の援助を行った。

今回の愁華祭は、『熱意～ATUSHI～』をテーマに掲げ、お笑い芸人の『ホリ』による爆笑ライブ、プロレスショー、よさこい、抽選会及び一般参加型の企画など多彩なイベントが行われた。

また、昨年に引き続き久留米市保険所主催で『食育・健康☆体験コーナーIN愁華祭!! ～楽しく学ぼう! あなたの健康づくり応援します～』をテーマに食育・健康に関する専門家による食事・健康測定、野菜クイズ、各種相談などが行われ、多数の方々が来場された。

さらに、本会では、愁華祭案内状を持参された会員にバザー券を配布し、青春時代の思い出に慕っていただきました。来場していただいた会員の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。次年度も本会では同様の企画を行う予定ですので、是非とも足を運んでいただき後輩の活躍を見て下さい。



教職員人事異動 (平成16年5月～平成21年4月まで)

平成17年度

〈新任教職員〉丸山定巳教授、高椋大教授、ロバートツビトコビッチ講師、横尾圭祐、野田剛史

〈退職教職員〉大西隼人教授、谷口研二教授、フランク・ガブリド講師、下川順三技術員、天野紀子

平成18年度

〈新任教職員〉牧之内顕文教授、ウイリアムジョセフアンダーウッド講師、奥野正義

〈退職教職員〉桜木茂講師、毛利史生講師、中島正信、白山信孝、安部勝一

平成19年度

〈新任教職員〉片山硬教授、坂田一矩教授、岩切稔教授、坂本和光教授、白石元准教授、東大輔講師、河野央講師、梶山項羽市、松村光晃、篠原清一

〈退職教職員〉林信行教授、馬場紘彦教授、吉田久良教授、丸山定巳教授、城侑司技術員、柴田英造教授、山内ひさ子教授、北島良清教師

平成20年度

〈新任教職員〉原田節男教授、池鯉鮒悟教授、原和雄准教授、山田久美准教授、マイケルデイリー教師、野口聡仁技術員、尾崎龍夫学長

〈退職教職員〉河野徹学長、井手靖雄教授、西山紀光教授、ウイリアムジョセフアンダーウッド教師、グレゴリーフラテイチ教師、永江聰准教授、森田秀亮

平成21年度

〈退職教職員〉田中欽一郎准教授、山口一生准教授、岡田英志講師、岩切稔教授